

主体的な読み手を育てる指導方法の工夫

～文学的文章の読みを通して～

中野区立谷戸小学校

校長 宮内 敬子

1 主体的な読み手を育てるとは

急激に変化する時代の中で、一人一人の児童が、自分の思いを言語化して伝えながら、あらゆる他者の思いや考えを尊重し、他者と協働して社会を切り拓き、よりよく生きていこうとするために、豊かな言語能力と創造力の育成は欠かせない。

国語科は、文章の意味を正確に理解できるようにするとともに、思考力、判断力、表現力等の基礎となる感性と言語能力を身に付けることができる教科である。文学的文章を読む学習では、登場人物の心情、描写の巧みさ、物語全体の面白さに気付くとともに、他者と協働して自分の読みと他者の読みを比べたり、新たな内容や表現のよさを発見したりして読みを深め、自らの感性を磨くとともに物語の魅力に気付かせたい。

主体的な読み手とは、自ら本を手にし、物語の面白さや魅力を感じ取り、自分の心と対話しながら読みすすめようとする人であると考えている。生涯にわたって主体的な読み手となる児童の育成を目指し、本校は令和5、6年度に「文学的文章の教材研究」「読みのコツを取り入れた指導方法の工夫」「児童の課題解決へのモチベーションを上げる指導と評価の一体化」について研究を積み重ねた。この研究を通して「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図っていききたいと考えている。

2 教材分析の方法

単元に入る前に、教材全文を5色に色分けして物語の登場人物の心情を表す描写や作品の全体像をとらえ、作品の特徴、登場人物の心情の変化、優れた表現など児童に着目させたい要素を分析する。それらの分析した要素について児童自身が気づき、興味や関心をもって主体的に読み解いていくように初発の感想を基に学習計画を立て、発問を工夫する。

事前に教材を分析しておくことで、一人一人の児童の反応を予測し、学習の展開方法や教師の声かけ等の想定を複数、用意しておくことができる。

教材文の5色の色分け

- ◆ 説明…黄色
- ◆ 会話…オレンジ
- ◆ 情景描写…水色
- ◆ 心情描写…ピンク
- ◆ 行動描写…緑色

教材文の分析

- ◆ 作品の特徴
- ◆ 想像させたい表現
- ◆ 難語句
- ◆ 着目させたい表現
- ◆ 表現の変わり目
- ◆ 季節や時刻と心情の変化 等

3「文学的文章の読みのコツ」と実践例

教材文の分析を経て、児童の学習の実態や初発の感想などから「児童にどのような力を身に付けさせたいか」「何をどのように読み取らせたいか」を明確にして、効果的な「読みのコツ」を活用して主体的に読みの力を付けさせていく。

① 読み分ける

登場人物の心情が変化した場面やファンタジーの入り口と出口、だれの会話文なのかなどを読み分けること。

例【3年生 教材 まいごのかぎ】

ファンタジーの入り口と出口は、どこだろう。

りいこの心情は変わったか。変わっていないか。どこから変わったか。

② 読み補う

作品の表現に、登場人物のしぐさ、心のつぶやきなどを付け加えること。

例【4年生 教材 一つの花】

“ゆみ子のにぎっている、一つの花を見つめながら―。”お父さんの思いを考える。

例【5年生 教材 ごんぎつね】

“青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。”兵十の心のつぶやきを考える。

③ 読み換える

行動や情景などの表現を言い換えたり、動作化したり、絵や図に表したりすること。

例【6年生 教材 帰り道】

“あきらめの境地で、ぼくは天をあおいだ。”

この表現を別の言葉に言い換えたり、動作にして表現したりしてみる。

④ 読みつなぐ

同じ言葉の繰り返し、人物の相関、始めと終わりの場面などを関連付けて読む。

例【6年生 教材 やまなし】

5月と12月の場面と宮沢賢治の人物像を関連させて、作者のメッセージを読む。

例【3年生 教材 かげおくり】

2回のかげおくりのちいちゃんの気持ちを比べて読む。

⑤ 読みつくる

続き話、時の経過を示す行間の読み、ポップ、本の紹介文などをつくる。

例【2年生 教材 スイミー】

大きなマグロを追い出した後の、スイミーと小さな魚たちの続き話をつくる。

例【2年生 教材 おてがみ】

“行間 四日たって、かたつむりくんが、がまくんの家につきました。”

行間（四日間）で、がまくんとかえるくんは、どのような会話をしていたか。

4 指導と評価の一体化

読みの力は、児童の学習の積み重ねや読書量、生活体験の幅によって、個人差が大きい。「読める子、理解している子」の意見で全体が読めたものとして、教師が授業を

進めていないだろうか。一人一人を適切に見取って評価しているだろうか。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現には、個人、ペア、グループ、一斉など、場の工夫と指導と評価の一体化が必要である。

評価には、子どもが試行錯誤しているときの「指導に生かす評価（形成的評価）」と終了時のノートや作品、振り返りなども含めて「記録に残す評価（総括的評価）」がある。評価が子どものモチベーションを上げ、主体的な学習意欲を持続させるものと考えれば、「形成的評価」と「授業内での適切なフィードバック」は、重要である。

本研究では、具体的評価規準と評価ABCの具体例とBCの児童への働きかけを指導案に明記することにより、教師が評価の基準を明確にもち、一人一人のよさやつまずきを見取り、児童の反応を生かして本時のねらいに即した指導をすることができるようにした。それにより児童の主体的に学習に向かう態度は向上し、学習意欲の持続につながっている。

① 単元の評価規準の例

【2年生 教材 スイミー】

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	身近なことを示す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ	「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体をとらえている。C (1)オ	粘り強く、場面に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って、自分の好きな場面を伝えようとしている。
具体的評価規準	①様子や行動を表す言葉や比喻表現を知り、読み取りでもった考えを話し合ったり、書いたりしている。(3～7時、9時) …	①様子を表す言葉、登場人物の行動を示す言葉を見落とさずに読み、主な出来事や場面が変化していることを読み取っている。(3～4時) …	①自分の好きな場面を毎時、振り返り、学習のまとめのポスターで表現しようとしている。(10時)

② 単元指導計画・評価計画の例

次	時	目標	主な学習活動（読みのコツ）	予想される児童の反応	評価規準		
					ア	イ	ウ
一	1 2	教材文を読んで…	リード文、挿絵、題名からどんなことが起こりそう…	小さい黒い魚がスイミー、大変なことが起こって…			①
二	3				①		

③ 本時の指導計画・評価計画例

過程	主な活動 読みのコツ	T 発問・指示 C 予想される児童の反応	児童の評価 A/B/C/ ★B★Cに対する教師の手だて
展開	スイミーの気持ちを吹き出しにいて、話し合う。 読み補う	T: スイミーの気持ちや行動がわかるところにサイドラインを引き、気持ちを想像して吹き出しに書こう。	A スイミーの気持ちを叙述を基に想像してとらえている。 B スイミーの気持ちを叙述を基にとらえている。 C スイミーの気持ちや行動がわかる叙述をとらえられない。 ★B “考えた、いろいろ考えた、うんと考えた” 気持ちはどう変わってきたかな。 ★C 作戦を考えているよ。どんな作戦を考えているかな。

5 基礎的な言語能力の育成

(1) 「言葉の宝箱」作文の取組

令和3年度から「書く力」と「語彙力」の育成のため、全校で100マス作文に取り組んでいる。国語の教科書の巻末にある「言葉の宝箱」から、児童の実態に適した言葉を選択し「お題」としている。毎週月曜日の全校朝会で「お題」の発表があり、全校児童が100マス作文に取り組む。1学年ずつ、学級の優秀作文に選ばれた児童が、全校朝会で作文を発表する。代表児童は、自分の作品を自分で表現することで達成感を味わっている。また、優秀作品の発表は、全校児童の目標となるとともに、友達のことを知り他者を尊重する機会となっている。



4年生の作文 お題「手にあせをにぎる」

(2) 読書週間等の取組

本の世界を身近に感じることができるよう、意図的に環境や機会をつくっている。友達や教職員が紹介した本を図書館で探して借りる児童は多い。本の帯やビブリオバトルで友達に選ばれる本を探して、年間を通して様々な本を読む児童もいる。

① 5月 本の帯大会

自分のお気に入りの本を紹介する本の帯を作成する。教室前に作品を並べ、友達を選んだ本を手にとって、見たり読んだりすることができるようにする。優秀作品は、学校図書館に飾られ、優秀作品に選ばれた児童は、全校朝会で作品の紹介をする。

② 9月 読書感想文の作成

授業で読書感想文の作成に取り組む。優秀感想文は、図書館の掲示版に掲示される。

③ 11月 ビブリオバトル

面白いと感じたこと、内容のクイズ、登場人物の関係など本の内容の続きを知りたくなるような紹介を児童一人一人が創意工夫する。各学級のビブリオバトル優勝者は、本の紹介を全校朝会で行う。本は図書館のおすすめ本コーナーに陳列される。

④ お話給食

読書週間中に本に登場する食べ物に合わせて「お話給食」を実施する。給食に関わった本を図書委員会の児童が各学級に紹介して回っている。本の紹介文とレシピを図書館に置き、各家庭でも話題にしてもらえるようにしている。

⑤ 教師のおすすめ本コーナー

先生方の思い出の本やおすすめ本にメッセージを添えて、図書館に陳列する。

⑥ 学級文庫の定期的な入れ替え

中野区のおすすめの本を3か月ごとに入れ替えて学級文庫に並べ、朝読書等で活用する。

6 研究の成果と課題

(1) 成果

① 児童の反応における成果

- ・児童は、初発の感想で感じた課題を学習課題として追究し、友達や教師の投げかけにより、新たな読みを発見したり共感したりするようになった。読むことが面白いと感じる児童が増えた。

単元終末での児童の感想 6年「帰り道」

「この物語を読んで、初発の感想と違う感想になりました。初発の感想では「帰り道で相手がイライラして気まずい」と書いていました。しかし、物語をたくさん読んでいくと二人がすれ違っていて、話が進まなかったということがわかりました。そして、「行こっか。」と言ったのが、周也でも律でもどちらでも、この帰り道を通じて二人が成長したと思いました。」

評価 A=中心人物の二人のすれ違いを理解している。二人の人物像とその成長をとらえることができている。

- ・様々な読書の取組により、「本を読むことが好き」という児童が継続的に多くいる。
84.7%

② 教師の指導力の向上における成果

- ・教師の教材分析や「読みのコツ」の活用により指導力が向上し、児童の反応を予想して、意図的に発問を構成できるようになった。
- ・単元のゴールを単元名にし、児童の思考の流れが途切れることがないように全文シートやワークシートを工夫し、授業の軌跡を終末に振り返ることができるようにした。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」につながる「指導と評価の一体化」を意識して一人一人を見取り、次の展開を考えてモチベーションを上げるような声かけ、称賛、問い返しを工夫するようになった。

(2) 課題

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図るために次の4点の課題に取り組む。

- ① 本のことを話題にできる学習環境や機会を意図的につくっていく。
- ② 初発の感想を基に児童が主体的に学習課題を設定し、「読みのコツ」を活用して学習を進めるスタイルを定着させる。
- ③ 学習のまとめ方として「ポップ」「ポスター」「音読劇」「コラージュ」「プレゼンテーション」「手紙」などの様々な学習体験をさせ、単元のゴールとなる学習のまとめ方を児童が選択することができるようにする。
- ④ 児童が自分に合った学習方法を調整し、主体的・対話的に学習をすすめられるように、授業の改善に取り組み、指導と評価の一体化を図っていく。

「読みのコツ」「教材分析の方法」提唱と研究のご指導

明星大学教育学部客員教授 俣田 康之先生

グループ研究 令和5、6年度中野区学校向上事業研究指定校 中野区立谷戸小学校

選定委員より<この論文の「よさ」について>

- ★児童自身の気付きを大切に、主体的に読みの力を育成するということは、テーマである「個別最適な学び」へとつながる取組であった。また具体的な児童の姿を明らかにしながら評価していくという点は大変すばらしかった。
- ★学校全体で研究テーマに取り組む体制が伺える点。また、具体的な実践例が多く、他校でも参考にしやすい
- ★研究の成果を受けて次につなげる課題が明確に定められていることで、この研究の更なる深まりが期待されます。
- ★教材分を精緻に分析し、学習展開を設定するとともに教師の声掛けを想定していること。また、評価においてB、Cに対する手立てを明記し、指導に当たっていること。
- ★新たな手法で指導の改善を図ろうとしている点。